



大阪科学・大学記者クラブ 御中

(同時提供先：文部科学記者会、科学記者会)

2024年10月11日

大阪公立大学

ポスト日本統治時代の韓国で 日本語学習が与えた影響を分析

<ポイント>

- ◇1960年代の日本語学習ブームを報じた韓国の新聞記事において、男女で内容に差があることが明らかに。
- ◇日本統治時代とその後の韓国において、日本語が話せることによる影響を分析。
- ◇日本統治時代後の韓国における言語、ジェンダー、国民のアイデンティティの関係を解明。

<概要>

1910年の韓国併合から日本が敗戦した1945年まで、日本は朝鮮を統治していました。その後、国交が正常化した1960年代、韓国では日本語学習がブームになりました。韓国の新聞は、主に女性が好んで日本語を学んでいると報じましたが、仕事や勉強のために日本語を学習しているエリート男性らについては、ほとんど報道していませんでした。

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科の楊 眞淑准教授は、日本語学習の報道において男女の差が生じた原因と、日本統治時代以降の日本の影響力について韓国の人々がどのように感じていたのかを、新聞報道などを基に調査。その結果、韓国の新聞は大学生などの若い世代の女性と、娯楽産業に従事している女性の2種類のグループに焦点を当て、たびたび日本語学習について記事を書いていたことが分かりました。また、先駆的な女性らは、日本語を通じてジェンダー意識を獲得していましたが、その主張は男性中心の社会では受け入れられていなかったことも明らかになりました。本研究により、日本統治時代後の韓国における言語、ジェンダー、国民のアイデンティティの関係をより深く理解できると考えられます。



本研究成果は、2024年9月2日、国際学術誌「Asian Studies Review」に掲載されました。

言語は社会を知る魅力的な窓のようなものです。さまざまな言語を人々がどのように学び、使っているかを研究することで、世界のしくみを深く理解することができると思っています。



楊 眞淑准教授

<研究の背景>

1960年代、韓国で日本語の本が非常に人気を集めました。韓国の新聞はこの傾向について、女子大生が小説を読むためや、娯楽産業に従事している女性が観光客と話すためなど、主に女性が日本語学習に興味を示している、という記事を頻繁に書いていました。しかし、男性が仕事や勉強のために日本語を学んでいるという事実はあまり報道されていませんでした。

<研究の内容>

本研究では、男性も日本語を学んでいたにもかかわらず、なぜ「日本語学習は女性がするものだ」と言われることが多かったのかを理解するため、1960年代から1970年代にかけての韓国の新聞記事やその他の歴史的資料を調査しました。また、日本が韓国を統治していた時代とその後、日本語を話せる女性らの生活にどのような影響を与えたかについても調べました。

本研究の結果、次の3点が明らかになりました。

1. 韓国の新聞は、日本語を学ぶ女子大学生と娯楽施設で働く女性の2つのグループに、たびたび焦点を当て報道していた。
2. 日本語が話せることでジェンダー観を得た先駆的な女性もいたが、その考えは時として韓国の伝統的な女性の役割意識に反発するものであった。
3. 日本語を学ぶ女性についての新聞の報道内容は、日本による統治時代後、韓国の人々が朝鮮半島における日本の影響力をどのように感じていたかを示唆するものである。

<期待される効果・今後の展開>

本研究により、日本による統治時代後の韓国における言語、ジェンダー、国民のアイデンティティの関係をより深く理解できます。また、困難な歴史を経た後でも、国や文化がどのように影響し合うかを学ぶことができます。将来的には、このような研究が今日の日本と韓国の関係をよりよく理解する手助けになると考えます。

<資金情報>

本研究は日本学術振興会（JSPS）科研費（22k13150）の支援を受けて行われました。

<掲載誌情報>

【発表雑誌】 Asian Studies Review

【論文名】 The Gendered Construction of the Japanese Language-Learning Boom in Postcolonial Korea

【著者】 Jinsuk Yang

【掲載 URL】 <https://doi.org/10.1080/10357823.2024.2393726>

【研究内容に関する問い合わせ先】

大阪公立大学大学院現代システム科学研究科
准教授 楊 眞淑（ヤン ジンスク）

E-mail : yang@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】

大阪公立大学 広報課

担当：谷

TEL : 06-6605-3411

E-mail : koho-list@ml.omu.ac.jp